

薬剤耐性（AMR）に関わる、適正使用作業部会とワンヘルス検討会で議論する当面の主な課題

資料5

目標	戦略	取組		小委員会※1)	適正使用作業部会※2)	ワンヘルス検討会※3)	
2 薬剤耐性及び抗微生物薬の使用量を継続的に監視し、薬剤耐性の変化や拡大の予兆を適確に把握する	2.2 医療機関における抗微生物薬使用量の動向の把握	抗微生物薬使用量（AMU）動向調査のリスク評価・リスク管理への応用	抗微生物薬の使用量に関する指標（AMU指標）を用いた抗微生物薬適正使用（AMS）の質の評価のためのガイドラインを策定	○		○	
	2.3 畜水産、獣医療等における動向調査・監視の強化	畜水産、獣医療等における分野の動向調査・監視体制の確立・強化	畜水産分野における動向調査・監視を強化	○		○	
	2.4 医療機関、検査機関、行政機関等における、薬剤耐性に対する検査手法の標準化と検査機能の強化	検査手法の統一化・精度管理の充実	各分野で統一的な比較や評価が可能となる、国際標準に準拠した薬剤感受性試験マニュアルの整備、研修の実施		○		○
			各医療機関において代表的感染症起炎微生物に関する薬剤感受性表（アンチバイオグラム）を作成するためのマニュアル・ガイドラインの整備		○		○
	2.5 ヒト、動物、食品、環境等に関する、統合的なワンヘルス動向調査の実施	統合的なワンヘルス動向調査体制の確立	薬剤耐性（AMR）、抗微生物薬使用量（AMU）に関する「薬剤耐性（AMR）ワンヘルス動向調査会議（仮称）」を設置し、以下を実施	国立感染症研究所、動物医薬品検査所、国立国際医療研究センター等が、「薬剤耐性（AMR）ワンヘルス動向調査ネットワーク（仮称）」を構築し、情報を集約・共有 動向調査・監視情報、その他の学術的研究情報、地方自治体による検査情報等の統合された情報に基づき分析・評価 統合的な動向調査・監視年次報告の作成、公表 動向調査・監視等に関するガイドラインの策定	○		○
3 適切な感染予防・管理の実践により、薬剤耐性微生物の拡大を阻止する	3.1 医療、介護における感染予防・管理と地域連携の推進	感染予防・管理（IPC）の推進及び連携強化	必要に応じ、「薬剤耐性（AMR）対策推進専門家会議（仮称）」（戦略 4.1参照）等において、外来部門や在宅医療等での感染予防・管理（IPC）対策について検討	○	○		
4 医療、畜水産等の分野における、抗微生物薬の適正使用を推進する	4.1 医療機関における抗微生物薬の適正使用の推進	抗微生物薬適正使用（AMS）の推進に資するガイドライン・マニュアルの整備	厚生労働省に「薬剤耐性（AMR）対策推進専門家会議（仮称）」を設置し、感染予防・管理（IPC）や抗微生物薬適正使用（AMS）を推進（戦略 3.1と連携）	○	○		
			公的な抗微生物薬適正使用（AMS）ガイドライン及び感染症診療マニュアルの整備	○	○		
		医療機関における抗微生物薬適正使用（AMS）体制の整備支援	医療機関における抗微生物薬適正使用（AMS）に関する利益相反（COI）管理指針、抗微生物薬適正使用（AMS）ガイドライン及び各医療機関の薬剤感受性に基づいた感染症診療マニュアルの整備の支援（戦略2.4と連携） 研究結果を踏まえ、院内感染対策委員会の役割に抗微生物薬適正使用（AMS）実施の追加を検討	○	○		

※1) 薬剤耐性（AMR）に関する小委員会
 ※2) 抗微生物薬適正使用等に関する作業部会
 ※3) 薬剤耐性（AMR）ワンヘルス動向調査検討会